

# 定期作況報告

平成28年11月  
(11月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

# 1. 気象経過

## 1) 融雪期以降の経過

4月：平均気温は上旬が平年より極めて高く、中旬は平年並で、下旬は低かった。月平均気温は4.3℃で平年並であった(+0.1℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬は多く、下旬は平年並で、月合計は40.5mmで平年よりやや少なかった。日照時間は上旬が平年並で、中旬はやや少なく、下旬は平年並で、月合計は160.8時間で平年並であった。

5月：平均気温は上旬が平年より高く、中旬・下旬はともに極めて高かった。月平均気温は13.3℃で平年より極めて高かった(+3.3℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬・下旬はともにやや少なく、月合計は32.0mmで平年より少なかった。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬・下旬はともに多く、月合計は244.2時間で平年より多かった。

6月：平均気温は上旬が平年より極めて低く、中旬はやや低く、下旬は平年並であった。月平均気温は13.6℃で平年より低かった(-1.7℃)。降水量は上旬が平年より極めて多く、中旬は平年並で、下旬は少なく、月合計は97.5mmで平年よりやや多かった。日照時間は上旬が平年よりやや少なく、中旬・下旬はともに平年並で、月合計は143.0時間で平年並であった。

7月：平均気温は上旬・中旬がともに平年よりやや低く、下旬は平年並であった。月平均気温は18.5℃で平年並であった(-0.4℃)。降水量は上旬が平年よりやや多く、中旬・下旬はともに平年並で、月合計は111.5mmで平年並であった。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬は平年並で、下旬はやや多く、月合計は187.7時間で平年よりやや多かった。

8月：平均気温は上旬・中旬がともに平年よりやや高く、下旬は高かった。月平均気温は21.4℃で平年よりやや高かった(+1.2℃)。降水量は上旬が平年並で、中旬・下旬はともに極めて多く、月合計は415.0mmで平年より極めて多かった。日照時間は上旬が平年より多く、中旬はやや多く、下旬はやや少なく、月合計は177.5時間で平年よりやや多かった。

9月：平均気温は上旬が平年並で、中旬は低く、下旬は高かった。月平均気温は21.1℃で平年並であった(+0.4℃)。降水量は上旬が平年より多く、中旬は少なく、下旬は平年並で、月合計は139.0mmで平年並であった。日照時間は上旬が平年より少なく、中旬・下旬はともに平年並で、月合計は131.3時間で平年並であった。

10月：平均気温は上旬が平年並で、中旬はやや低く、下旬は極めて低かった。月平均気温は6.7℃で平年より低かった(-1.9℃)。降水量は上旬・中旬・下旬がともに平年より少なく、月合計は32.5mmで平年より少なかった。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬・下旬はともに平年並で、月合計は173.3時間で平年並であった。

11月：平均気温は上旬が平年より極めて低く、中旬はやや低かった。中旬までの平均気温は-1.0℃で平年より極めて低かった(-4.3℃)。降水量は上旬が平年より多く、中旬は少なく、中旬までの合計は46.0mmで平年並であった。日照時間は上旬が平年並みで、中旬はやや多く、中旬までの合計は88.1時間で平年並であった。

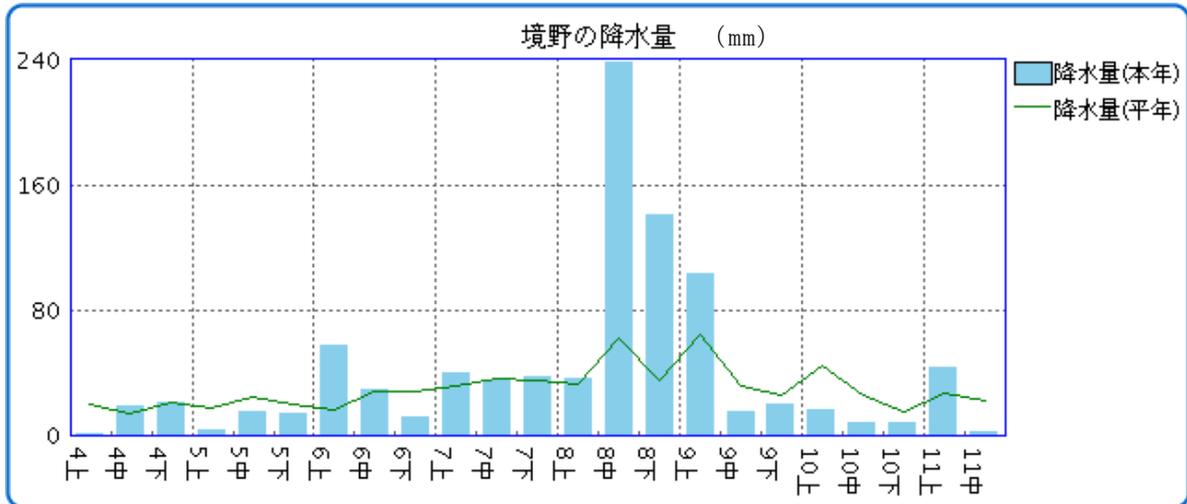
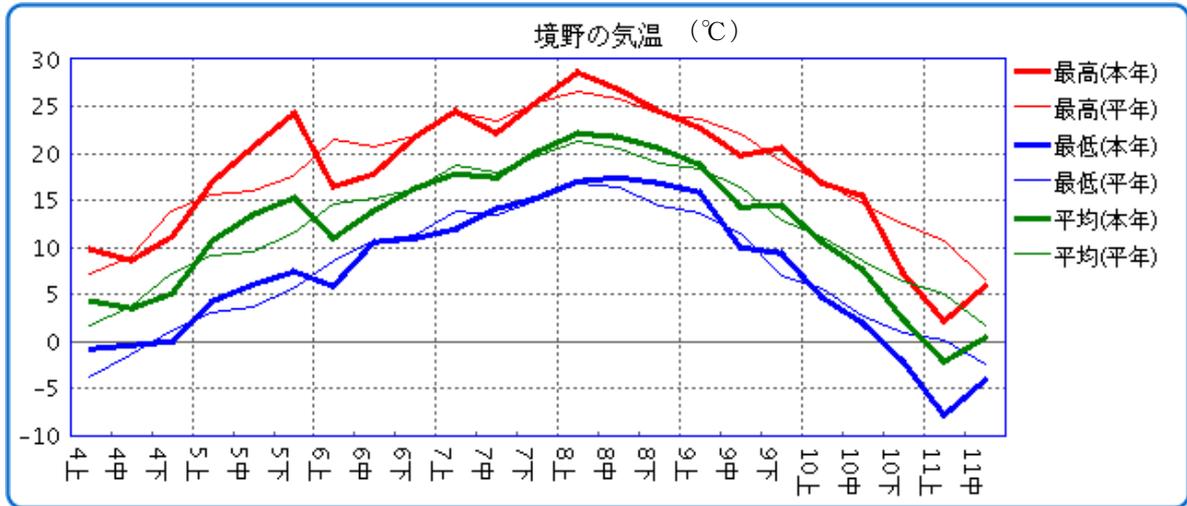
農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

**気温**：5月は平年より極めて高く、6月は低く、7月は平年並で、8月はやや高く、9月は平年並であった。この期間の日平均気温の積算値は2533℃で平年並であった(平年差+77℃、平年比103%)。

**降水量**：5月は平年より少なく、6月はやや多く、7月は平年並で、8月は極めて多く、9月は平年並であった。この期間の降水量の積算は795mmで平年より多かった(平年差+313mm、平年比165%)。

**日照時間**：5月は平年より多く、6月は平年並で、7月・8月はともにやや多く、9月は平年並であった。この期間の日照時間の積算は884時間で平年並であった(平年差+109時間、平年比114%)。

## 2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



### 3) 気象表

年月	旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較									
平成28年																
4月	上旬	4.2	1.7	-2.5	9.8	7.1	2.7	-0.8	-3.8	3.0	1.0	19.7	-18.7	66.0	60.9	5.1
	中旬	3.5	3.6	-0.1	8.5	9.0	-0.5	-0.5	-1.5	1.0	19.0	13.5	5.5	36.6	57.3	-20.7
	下旬	5.1	7.2	-2.1	11.2	13.9	-2.7	-0.1	1.0	-1.1	20.5	20.4	0.1	58.2	57.8	0.4
5月	上旬	10.8	9.1	1.7	17.0	15.6	1.4	4.3	3.1	1.2	3.5	17.1	-13.6	67.8	51.2	16.6
	中旬	13.5	9.5	4.0	20.7	15.9	4.8	6.1	3.6	2.5	14.5	23.8	-9.3	85.3	51.9	33.4
	下旬	15.3	11.4	3.9	24.2	17.6	6.6	7.5	5.5	2.0	14.0	20.0	-6.0	91.1	59.4	31.7
6月	上旬	10.9	14.7	-3.8	16.5	21.5	-5.0	5.9	8.6	-2.7	57.0	15.4	41.6	45.6	62.1	-16.5
	中旬	13.8	15.2	-1.4	17.8	20.7	-2.9	10.5	10.6	-0.1	29.5	27.8	1.7	47.2	44.8	2.4
	下旬	16.2	16.1	0.1	21.7	21.9	-0.2	10.9	11.2	-0.3	11.0	27.4	-16.4	50.2	51.8	-1.6
7月	上旬	17.7	18.7	-1.0	24.5	24.4	0.1	11.9	13.8	-1.9	40.0	30.6	9.4	72.0	52.5	19.5
	中旬	17.4	18.0	-0.6	22.1	23.4	-1.3	14.1	13.5	0.6	34.5	36.0	-1.5	39.7	45.6	-5.9
	下旬	20.2	19.8	0.4	25.5	25.4	0.1	15.3	15.0	0.3	37.0	34.2	2.8	76.0	56.7	19.3
8月	上旬	22.1	21.2	0.9	28.6	26.6	2.0	17.1	16.8	0.3	36.0	32.7	3.3	82.7	48.1	34.6
	中旬	21.8	20.5	1.3	26.8	25.7	1.1	17.5	16.4	1.1	238.5	62.1	176.4	56.7	40.9	15.8
	下旬	20.5	18.9	1.6	24.5	24.2	0.3	16.9	14.4	2.5	140.5	34.6	105.9	38.1	51.7	-13.6
9月	上旬	18.7	18.4	0.3	22.7	23.7	-1.0	15.9	13.7	2.2	103.5	64.4	39.1	23.5	47.1	-23.6
	中旬	14.3	16.4	-2.1	19.7	22.1	-2.4	9.9	11.4	-1.5	15.5	30.9	-15.4	43.8	49.3	-5.5
	下旬	14.5	12.9	1.6	20.6	19.2	1.4	9.3	7.0	2.3	20.0	24.8	-4.8	64.0	61.9	2.1
10月	上旬	10.6	11.0	-0.4	16.9	16.9	0.0	4.7	5.5	-0.8	16.5	44.4	-27.9	68.0	55.4	12.6
	中旬	7.6	8.5	-0.9	15.4	14.7	0.7	2.0	2.6	-0.6	7.5	25.2	-17.7	57.7	52.3	5.4
	下旬	2.3	6.4	-4.1	7.2	12.5	-5.3	-2.3	0.9	-3.2	8.5	15.0	-6.5	47.6	56.8	-9.2
11月	上旬	-2.3	5.0	-7.3	2.1	10.6	-8.5	-7.9	0.1	-8.0	43.5	25.9	17.6	35.5	41.2	-5.7
	中旬	0.4	1.6	-1.2	5.8	6.5	-0.7	-4.2	-2.4	-1.8	2.5	21.6	-19.1	52.6	40.1	12.5
		本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較									
4月		4.3	4.2	0.1	9.8	10.0	-0.2	-0.5	-1.4	0.9	40.5	53.6	-13.1	160.8	176.0	-15.2
5月		13.3	10.0	3.3	20.7	16.4	4.3	6.0	4.1	1.9	32.0	60.9	-28.9	244.2	162.5	81.7
6月		13.6	15.3	-1.7	18.7	21.4	-2.7	9.1	10.1	-1.0	97.5	70.6	26.9	143.0	158.7	-15.7
7月		18.5	18.9	-0.4	24.1	24.4	-0.3	13.8	14.1	-0.3	111.5	100.8	10.7	187.7	154.8	32.9
8月		21.4	20.2	1.2	26.6	25.5	1.1	17.2	15.8	1.4	415.0	129.4	285.6	177.5	140.7	36.8
9月		21.1	20.7	0.4	28.4	28.7	-0.3	15.2	13.5	1.7	139.0	120.1	18.9	131.3	158.3	-27.0
10月		6.7	8.6	-1.9	13.0	14.6	-1.6	1.3	2.9	-1.6	32.5	84.6	-52.1	173.3	164.5	8.8
11月(中旬まで)		-1.0	3.3	-4.3	4.0	8.6	-4.6	-6.1	-1.2	-4.9	46.0	47.5	-1.5	88.1	81.3	6.8

注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる(てん蔵の定期作況気象情報)。10年平均は前10か年の平均値である。

### 4) 季節表および農耕期間の平均気温、降水量、日照時間の積算値

年次	初霜 (年.月.日)	根雪始 (年.月.日)	根雪終 (年.月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年.月.日)	耕鋤始 (年.月.日)	晩霜 (年.月.日)	初霜 (年.月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年.月.日)
本年	H27.10.14	H27.11.22	H28.4.7	138	H28.4.30	H28.4.25	H28.4.24	H28.10.5	163	H28.10.21
平年	10.12	12.6	4.12	128	5.4	4.29	5.9	10.13	156	11.1
比較	2	-14	-5	10	-4	-4	-15	-8	7	-11

期間	項目	平均気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
		5月上旬 ～ 9月下旬	本年	2533
	平年	2456	482	775
	比較	77	313	109

注) 農耕期間の積算値は置戸町境野のアメダスにより、それ以外は北見農試観測値である。平年値は前10か年の平均値である。

## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦（平成27年9月播種） 作 況：良

事 由：播種は平年より2日遅い9月18日に行った。出芽期は平年並の9月25日であった。越冬前（11月20日）の草丈と茎数は平年より少なかったが、越冬に必要な生育量は確保できていた。根雪始は平年より14日早く11月22日、融雪期は平年より5日早い4月7日で、根雪期間は平年より10日長かった。調査圃場は融雪剤を散布したため、融雪期は9日早い3月29日で、雪腐病の発生は少なかった。

融雪期以降、4月の平均気温は平年並、5月は極めて高く経過し生育は進んだが、6月上旬の平均気温は極めて低かったため、出穂期は平年より1日早い6月8日であった。6月下旬～7月下旬の平均気温はほぼ平年並に経過したため、成熟期は平年並の7月26日であった。稈長は平年よりやや短く、穂長、穂数は平年並であった。また、倒伏は発生しなかった。登熟期間が平年より1日長く、7月上旬の日照時間が平年よりやや多く経過したことから、子実の充実は良好であった。リットル重、千粒重ともに平年を上回り、子実重は平年比110%と多収で、検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目		きたほなみ		
		本年	平年	比較
播種期	(平成27年月.日)	9.18	9.16	2
出芽期	(平成27年月.日)	9.25	9.25	0
出穂期	(平成28年月.日)	6.8	6.9	△1
成熟期	(平成28年月.日)	7.26	7.26	0
草丈(cm)	(平成27年11月20日)	13.4	19.6	△6.2
草丈(cm)	(平成28年5月20日)	39.1	38.1	1.0
草丈(cm)	(平成28年6月20日)	91.9	92.7	△0.8
茎数(本/m <sup>2</sup> )	(平成27年11月20日)	1124	1330	△206
茎数(本/m <sup>2</sup> )	(平成28年5月20日)	1638	1459	179
茎数(本/m <sup>2</sup> )	(平成28年6月20日)	794	775	19
稈長(cm)	(成熟期)	82	86	△4
穂長(cm)	(成熟期)	8.7	8.7	0.0
穂数(本/m <sup>2</sup> )	(成熟期)	756	752	4
子実重(kg/10a)		773	705	68
同上平年比(%)		110	100	10
リットル重(g)		814	794	20
千粒重(g)		42.6	37.4	5.2
品質(検査等級)		1	2	-

注) 「きたほなみ」の平年値は前7カ年中、平成22年(最凶)、27年(最豊)を除く5カ年の平均値。

2) 秋まき小麦（平成28年9月播種） 作 況：平年並

事 由：播種は平年より2日早い9月15日に行った。出芽期は平年より2日早い9月23日で、出芽は良好であった。出芽後の平均気温はほぼ平年並に経過したが、10月下旬～11月上旬は平年より極めて低く、生育は停滞した。越冬前の草丈は平年並、茎数は平年を下回ったが、越冬に必要な生育量は確保できている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期（平成28年月・日）	9.15	9.17	△2
出芽期（平成28年月・日）	9.23	9.25	△2
草丈(cm)（平成28年11月20日）	18.1	18.5	△0.4
茎数(本/m <sup>2</sup> )（平成28年11月20日）	1039	1258	△219

注) 「きたほなみ」の平年値は前7カ年中、平成22年（最凶）、27年（最豊）を除く5カ年の平均値。

### 3) 春まき小麦

作 況： やや良

事 由：調査圃場は融雪剤散布により3月30日に融雪となった。4月上旬の気温は平年より極めて高く圃場の乾燥が進んだことから、播種期は平年より4日早い4月14日であった。4月下旬の平均気温が平年より低く、出芽期は平年より1日早かった。出芽後の5月の平均気温が高かったため生育は進み、5月20日の草丈、茎数は平年を上回った。6月上中旬の平均気温が平年より低く経過したことから生育は緩慢となり、出穂期は平年並から1日遅かった。開花後の7月上旬の降水量は平年よりやや多く、わずかに赤かび病の発生が認められた。稈長、穂長は平年並であるが、穂数は平年を大きく上回った。7月下旬から降雨により倒伏が発生し始め、8月3日の大雨によって両品種とも倒伏程度は甚となった。成熟期は平年並から1日遅く、登熟期間は平年並であった。穂数が平年を大きく上回ったことから、子実重は平年比106~120%と多収であった。しかし、倒伏の影響で子実は充実不足となり、リットル重と千粒重は平年を大きく下回った。「春よ恋」では発芽粒がわずかに認められたものの、両品種とも検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	4.14	4.18	△ 4	4.14	4.18	△ 4	
出芽期 (月.日)	5.2	5.3	△ 1	5.3	5.4	△ 1	
出穂期 (月.日)	6.23	6.22	1	6.21	6.21	0	
成熟期 (月.日)	8.5	8.4	1	8.6	8.6	0	
草丈 (cm)	(5月20日)	17.3	14.7	2.6	17.5	14.8	2.7
	(6月20日)	67.1	67.7	△ 0.6	66.3	67.8	△ 1.5
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	(5月20日)	578	408	170	523	396	127
	(6月20日)	956	796	160	1015	788	227
稈長 (cm) (7月20日)	98	94	4	91	94	△ 3	
穂長 (cm) (7月20日)	8.2	8.1	0.1	7.6	7.3	0.3	
穂数 (本/m <sup>2</sup> ) (7月20日)	806	538	268	840	571	269	
子実重 (kg/10a)	579	481	98	522	493	29	
同上平年比 (%)	120	100	20	106	100	6	
リットル重 (g)	789	806	△ 17	772	812	△ 40	
千粒重 (g)	34.3	39.8	△ 5.5	33.7	42.8	△ 9.1	
品質 (検査等級)	1	1	-	1	1	-	

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、27年(最豊)を除く5か年の平均。

## 4) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : やや不良

事 由 : 播種期は平年より1日遅い5月17日であったが、5月下旬の気温が高かったため、出芽期は平年より4日早い5月27日であった。出芽後は6月上旬から7月中旬にかけて気温が全般に平年より低温傾向で推移したため、7月20日の草丈は平年を下回った。開花期および抽糸期は、いずれも平年より1日遅かった。抽糸期後は9月上旬にかけて気温が平年並かやや高い傾向であったものの、草丈は平年を下回って推移し、9月20日の稈長は平年を32cm下回った。本年の収穫期は平年より1日早い9月23日であった。収穫時の子実の熟度は黄熟初期と平年並で、総体の乾物率は平年より低かった。乾物茎葉重および乾物雌穂重は平年よりやや少なく、乾物総重ならびに推定TDN収量は、いずれも平年比93%と平年よりやや少なかった。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	チベリウス			
	本年	平年	比較	
播種期 (月・日)	5.17	5.16	1	
出芽期 (月・日)	5.27	5.31	△4	
開花期 (月・日)	8.3	8.2	1	
抽糸期 (月・日)	8.2	8.1	1	
収穫期 (月・日)	9.23	9.24	△1	
収穫時の熟度	黄熟初期	黄熟初期		
草丈 (cm)	(6月20日)	24.2	31.4	△7.2
	(7月20日)	149.3	179.4	△30.1
	(8月20日)	278.1	314.5	△36.4
稈長 (cm)	(9月20日)	247	279	△32
葉数 (枚)	(6月20日)	4.3	4.7	△0.4
	(7月20日)	12.3	12.5	△0.2
	(8月20日)	15.0	14.7	0.3
生総重 (kg/10a)	6703	6571	132	
乾物茎葉重 (kg/10a)	900	953	△53	
乾物雌穂重 (kg/10a)	943	1024	△81	
乾物総重 (kg/10a)	1842	1977	△135	
同上平年比 (%)	93	100	△7	
推定TDN収量 (kg/10a)	1325	1425	△100	
同上平年比 (%)	93	100	△7	
総体の乾物率 (%)	27.5	30.2	△2.7	
乾雌穂重割合 (%)	51.2	51.7	△0.5	
有効雌穂割合 (%)	100.0	99.3	0.7	

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850。

## 5) 大豆

## 作 況：不良

事 由：播種は平年より4日早い5月19日に行った。播種後の気温が高かったため、出芽期は平年より8日早い5月28日であった。6月上～中旬は低温に推移し、生育は遅延した。開花始は平年より4日遅い7月21日であった。7月下旬以降、やや高温傾向で経過したため、8月下旬には主茎長はやや短い、主茎節数、分枝数、着莢数とも平年並に回復した。8月中旬以降の降雨の影響により多～甚程度の倒伏が発生し、9月中旬には低温となったため登熟は遅れ、成熟期は平年より9日遅い10月2日であった。百粒重は平年を上回ったが、着莢数、一莢内粒数は平年を下回り、子実重は平年比77%と低収であった。品質は平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	ユキホマレ			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.19	5.23	△ 4	
出芽期 (月.日)	5.28	6. 5	△ 8	
開花始 (月.日)	7.21	7.17	4	
成熟期 (月.日)	10. 2	9.23	9	
主茎長 (cm)	(6月20日)	9.8	12.1	△ 2.3
	(7月20日)	45.0	56.7	△11.7
	(8月20日)	69.4	72.1	△ 2.7
	(9月20日)	69.0	73.2	△ 4.2
	(成熟期)	66.0	72.9	△ 6.9
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.2	1.3	△ 1.1
	(7月20日)	7.9	7.7	0.2
主茎節数	(8月20日)	11.0	11.3	△ 0.3
	(9月20日)	10.3	11.3	△ 1.0
	(成熟期)	10.7	11.2	△ 0.5
分枝数 (本/株)	(7月20日)	5.1	5.1	0.0
	(8月20日)	6.1	5.7	0.4
	(9月20日)	5.2	5.5	△ 0.3
	(成熟期)	5.2	5.3	△ 0.1
着莢数 (個/株)	(8月20日)	78.4	78.2	0.2
	(9月20日)	66.1	68.6	△ 2.5
	(成熟期)	61.1	69.3	△ 8.2
一莢内粒数	1.76	1.87	△0.11	
子実重 (kg/10a)	291	376	△ 85	
同上平年比 (%)	77	100	△ 23	
百粒重 (g)	37.9	36.2	1.7	
屑粒率 (%)	1.4	0.9	0.5	
品質 (検査等級)	2上	2上	—	

注1) 平年値は、前7か年中21年(最凶)、平成23年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

注3) 検査等級は造りによる検査である。

## 6) 小豆

作 況：不良

事 由：播種は平年より4日早い5月19日に行った。播種後の気温が高かったため、出芽期は平年より7～8日早かった。6月上～中旬は低温に推移し、生育は遅延した。開花始は平年より「サホロシヨウズ」で5日遅い7月26日、「エリモシヨウズ」では3日遅い7月27日であった。9月上旬の日照不足と9月中旬の低温により登熟は遅れ、成熟期は平年より「サホロシヨウズ」で9日遅い9月26日、「エリモシヨウズ」で6日遅い9月29日であった。両品種とも着莢数、一莢内粒数および百粒重は平年を下回り、子実重は「サホロシヨウズ」が平年比64%、「エリモシヨウズ」が同67%とかなりの低収であった。品質は「サホロシヨウズ」で平年並、「エリモシヨウズ」では平年をやや上回った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.19	5.23	△ 4	5.19	5.23	△ 4	
出芽期 (月.日)	5.31	6. 7	△ 7	5.31	6. 8	△ 8	
開花始 (月.日)	7.26	7.21	5	7.27	7.24	3	
成熟期 (月.日)	9.26	9.17	9	9.29	9.23	6	
主茎長 (cm)	(6月20日)	3.3	4.1	△ 0.8	3.3	4.3	△ 1.0
	(7月20日)	12.8	23.3	△10.5	14.2	21.3	△ 7.1
	(8月20日)	72.1	79.3	△ 7.2	70.6	70.9	△ 0.3
	(9月20日)	78.2	86.8	△ 8.6	80.2	75.3	4.9
	(成熟期)	74.4	88.6	△14.2	77.1	75.3	1.8
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.2	0.8	△ 0.6	0.2	0.8	△ 0.6
	(7月20日)	5.9	7.0	△ 1.1	6.4	7.1	△ 0.7
主茎節数	(8月20日)	13.5	13.1	△ 1.1	14.4	13.6	0.8
	(9月20日)	13.1	13.8	△ 0.7	14.3	14.3	0.0
	(成熟期)	13.4	13.9	△ 0.5	14.6	14.3	0.3
分枝数 (本/株)	(7月20日)	0.7	3.1	△ 2.4	1.0	3.0	△ 2.0
	(8月20日)	3.4	4.5	△ 1.1	3.7	4.2	△ 0.5
	(9月20日)	3.2	4.3	△ 1.1	3.9	4.0	△ 0.1
	(成熟期)	2.4	4.2	△ 1.8	3.2	4.0	△ 0.8
着莢数 (個/株)	(8月20日)	43.1	55.7	△12.6	42.0	59.0	△17.0
	(9月20日)	53.2	56.8	△ 3.6	56.7	57.4	△ 0.7
	(成熟期)	48.8	56.7	△ 7.9	51.6	57.4	△ 5.8
一莢内粒数	5.40	5.85	△0.45	6.04	6.40	△0.36	
子実重 (kg/10a)	260	405	△ 145	281	422	△ 141	
同上平年比 (%)	64	100	△ 36	67	100	△ 33	
百粒重 (g)	14.9	15.5	△ 0.6	14.4	14.6	△ 0.2	
屑粒率 (%)	7.6	2.0	5.6	9.8	2.5	7.3	
品質 (検査等級)	3下	3下	—	3中	3下	—	

注1) 平年値は、前7か年中平成23年(最豊)、平成24年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

注3) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

## 7) 菜豆

## 作況：不良

事由：播種は平年より4日早い5月19日に行った。播種後の気温が高かったため、出芽期は平年より7日早い5月30日であった。6月上～中旬は低温に推移し生育は遅延したが、6月下旬は平年並で推移したため生育は回復し、開花始は平年より1日遅い7月9日であった。8月以降、降雨の影響で倒伏が生じ、登熟に影響した。成熟期は平年並の9月1日であった。一莢内粒数は平年並であったが、着莢数と百粒重は平年を下回り、子実重は平年比79%と低収であった。また、成熟期前後の高温と多雨により腐敗粒と色流れ粒が多発し、さらに莢内発芽粒も発生したため、屑粒率は平年より著しく高く、品質は平年より劣った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	大正金時			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.19	5.23	△ 4	
出芽期 (月.日)	5.30	6.6	△ 7	
開花始 (月.日)	7.9	7.8	1	
成熟期 (月.日)	9.1	9.1	0	
草丈 (cm)	(6月20日)	11.0	10.1	0.9
	(7月20日)	44.3	45.9	△ 1.6
	(8月20日)	49.5	51.0	△ 1.5
	(9月20日)			
	(成熟期)	45.1	50.8	△ 5.7
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.4	1.0	△ 0.6
	(7月20日)	3.4	3.3	0.1
主茎節数	(8月20日)	5.7	5.3	0.4
	(9月20日)			
	(成熟期)	5.6	5.3	0.3
分枝数 (本/株)	(7月20日)	4.5	5.4	△ 0.9
	(8月20日)	4.1	5.3	△ 1.2
	(9月20日)			
	(成熟期)	3.9	4.9	△ 1.0
着莢数 (個/株)	(8月20日)	19.3	21.8	△ 2.5
	(9月20日)			
	(成熟期)	18.1	20.8	△ 2.7
一莢内粒数	3.05	3.02	0.03	
子実重 (kg/10a)	271	343	△ 72	
同上平年比 (%)	79	100	△ 21	
百粒重 (g)	62.3	71.1	△ 8.8	
屑粒率 (%)	72.1	7.4	64.7	
品質 (検査等級)	規格外	3中	—	

注1) 平年値は、前7か年中、平成23年(最豊)、平成25年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

注3) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

## 8) ばれいしょ

## 作 況：やや不良

事 由：植え付けは平年より2日早い5月10日に行った。5月中～下旬の気温が平年より高かったため、萌芽期は平年より4～5日早かったが、6月上～中旬が低温に経過したことから開花始はほぼ平年並であった。枯ちよう期は、8月の気温が平年より高かったため「男爵薯」で平年より6日早かった。「コナフブキ」では2日早かった。

「男爵薯」では、上いも数は少なかったが上いも平均重が重かったため、上いも重は平年比101%と平年並で、でん粉価は平年より0.8ポイント低かった。「コナフブキ」では、8月下旬以降、日照時間が少なく経過したため上いも重は平年比95%と平年をやや下回り、でん粉価も0.6ポイント下回った。このため、でん粉重は平年比92%であった。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期 (月.日)	5.10	5.12	△ 2	5.10	5.12	△ 2	
萌芽期 (月.日)	5.29	6. 3	△ 5	5.31	6. 4	△ 4	
開花始 (月.日)	6.29	6.30	△ 1	6.29	6.30	△ 1	
枯ちよう期 (月.日)	8.26	9. 1	△ 6	10. 2	10. 4	△ 2	
茎長(cm)	(6月20日)	23.2	20.5	2.7	20.7	22.7	△2.0
	(7月20日)	53	50	3	74	70	4
	(8月20日)	53	50	3	83	79	4
茎数(本/株)	(6月20日)	3.9	3.5	0.4	3.1	3.1	0.0
	(7月20日)	4.1	3.8	0.3	3.0	3.6	△0.6
上いも重(kg/10a)	(8月20日)	5074	4466	608	3675	3732	△57
	(9月20日)	—	—	—	4157	4900	△743
でん粉価(%)	(8月20日)	14.7	15.2	△0.5	20.7	20.9	△0.2
	(9月20日)	—	—	—	22.5	22.0	0.5
でん粉重(kg/10a)	(9月20日)	—	—	—	894	927	△33
上いも数(個/株)	9.9	11.0	△1.1	9.6	10.8	△1.2	
上いも平均重(g)	105	94	11	111	105	6	
上いも重(kg/10a)	4583	4543	40	4747	4992	△245	
同上平年比(%)	101	100	1	95	100	△ 5	
でん粉価(%)	14.0	14.8	△0.8	21.3	21.9	△0.6	
でん粉重(kg/10a)	—	—	—	964	1046	△82	
同上平年比(%)	—	—	—	92	100	△ 8	

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24(最豊)を除く5か年の平均。

9) てんさい

作 況：不良

事 由：播種は、平年より2日遅い3月23日に行った。育苗期間中は気温が平年より高めに推移したため、苗の生育は平年より旺盛であった。

移植は平年並の5月6日に行った。4月中下旬に平年並の降雨があり、以降も断続的に降雨があったため活着は順調であった。5月は平均気温が平年より高く日照時間もやや長かったため、生育は平年より進んだ。なお5月8日に10m以上の強風があったが、被害は軽微であった。6月上中旬は気温が平年よりかなり低く、生育は停滞した。6月下旬から7月中旬までは平年並の気象経過となったため、生育は平年並に回復した。7月下旬から8月中旬までは気温が平年よりやや高く、降水量および日照時間も十分であったため、地上部の生育は順調に進んだが、地下部の生育はやや遅れた。8月中旬から9月上旬の台風による豪雨の影響で、黒根病等の根腐症状が多発した。

収穫は平年より1日早い10月19日に行った。根重は6月の低温の影響と根腐症状の多発のため、平年を下回った。根中糖分は8月中旬から9月下旬までの最低気温が高かったため、平年を下回った。これらの結果、糖量は平年を下回った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

表 その1

調査項目	移植						直播			
	モノホマレ			アーベント			リッカ(参考)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.23	3.21	2	3.23	3.21	2	5.6	5.5	1	
移植期 (月.日)	5.6	5.6	0	5.6	5.6	0	-	-	-	
出芽期 (月.日)	-	-	-	-	-	-	5.17	5.18	△1	
収穫期 (月.日)	10.19	10.20	△1	10.19	10.20	△1	10.19	10.19	0	
草丈(cm)	(5月20日)	7.1	4.9	2.2	6.5	5.1	1.4	-	-	-
	(6月20日)	24.1	26.9	△2.8	24.0	27.0	△3.0	8.8	14.8	△6.0
	(7月20日)	56.5	55.3	1.2	52.5	51.8	0.7	43.4	51.5	△8.1
	(8月20日)	62.9	60.2	2.7	60.3	55.9	4.4	64.5	62.4	2.1
	(9月20日)	63.4	60.0	3.4	58.9	56.0	2.9	66.0	62.2	3.8
生葉数(枚)	(5月20日)	6.1	4.8	1.3	5.7	4.4	1.3	-	-	-
	(6月20日)	12.6	12.6	0.0	12.3	11.7	0.6	6.2	7.2	△1.0
	(7月20日)	21.3	21.9	△0.6	20.7	20.7	0.0	13.9	16.2	△2.3
	(8月20日)	28.2	27.5	0.7	29.2	27.0	2.2	18.7	21.7	△3.0
	(9月20日)	32.4	30.4	2.0	31.4	29.6	1.8	20.6	21.3	△0.7
茎葉重(g/個体)	(6月20日)	75	111	△36	73	104	△31	4	17	△14
	(7月20日)	648	616	32	630	587	43	265	447	△182
	(8月20日)	891	832	59	982	855	127	717	793	△76
	(9月20日)	744	747	△3	771	779	△8	620	720	△100
根重(g/個体)	(6月20日)	15	23	△8	16	23	△7	0	1	△1
	(7月20日)	249	269	△20	261	282	△21	56	149	△93
	(8月20日)	678	720	△42	736	789	△53	455	588	△133
	(9月20日)	1001	1017	△16	1264	1030	234	802	908	△106
根周(cm)	(7月20日)	20.5	21.6	△1.1	21.8	22.9	△1.1	15.8	19.0	△3.2
	(8月20日)	29.1	30.8	△1.7	32.0	33.1	△1.1	24.9	29.8	△4.9
	(9月20日)	34.0	35.2	△1.2	33.8	36.7	△2.9	30.7	33.6	△2.9
根中糖分(%)	(9月20日)	14.43	14.83	△0.40	15.04	15.14	△0.10	14.63	14.65	△0.02

表 その2

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			リッカ(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (収穫期) (kg/10a)	4110	4780	△670	4980	5223	△243	3666	4313	△647
根重 (収穫期) (kg/10a)	6720	7329	△609	6890	7437	△547	5600	6628	△1028
同上平年比(%)	92	100	△8	93	100	△7	84	100	△16
根中糖分(%)	16.59	17.17	△0.58	17.19	17.66	△0.47	16.39	17.39	△1.00
同上平年比(%)	97	100	△3	97	100	△3	94	100	△6
糖量(kg/10a)	1115	1258	△143	1184	1313	△129	947	1153	△206
同上平年比(%)	89	100	△11	90	100	△10	82	100	△18

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 直播「リッカ」は参考品種、平年値は前6か年の平均。

## 10) 牧 草 (チモシー)

作 況 : 平年並

事 由 : 萌芽期は平年より3日早い4月21日であった。冬損程度は平年並、春の被度は100%であった。

1 番草 ; 5月の気温が平年より高く推移したため、1番草の出穂始、出穂期はいずれも平年より4日早く、刈取りは平年より4日早い6月17日に行った。草丈は平年より8cm低かったが、乾物収量は平年比102%と平年並であった。

2 番草 ; 収穫時の草丈は平年並であったが、節間伸長程度は平年よりやや大きかった。乾物収量は平年比111%と平年より多かった。

3 番草 ; 8月中旬から9月上旬の降水量が平年より極めて多かったため、乾物率は平年を大きく下回った。このため、生草収量は平年より多かったが、乾物収量は平年比94%とやや少なかった。

1～3番草の合計乾物収量は、平年比102%と平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

表 その1

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月.日)	4.21	4.24	△3
冬損程度		1.0	1.2	△0.2
被度(%)	(5月18日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始	(月.日)	6.10	6.14	△4
出穂期	(月.日)	6.14	6.18	△4
出穂程度	1番草	8.0	7.5	0.5
節間伸長程度	2番草	3.3	2.8	0.5
刈取日(月.日)	1番草	6.17	6.21	△4
	2番草	8.5	8.11	△6
	3番草	9.29	10.5	△6
倒伏程度	1番草	4.5	3.0	1.5
病害罹病程度	1番草	1.0	1.7	△0.7
	2番草	3.0	3.3	△0.3
	3番草	2.0	3.5	△1.5
草丈(cm)	(5月18日)	37	30	7
	(6月5日)	66	69	△3
	1番草	94	102	△8
	2番草再生時	39	37	2
	2番草	58	58	0
	3番草再生時	45	45	0
生草収量(kg/10a)	3番草	48	45	3
	1番草	3126	2734	392
	2番草	807	792	15
	3番草	945	623	322
	合計	4878	4149	729
乾物率(%)	1番草	19.0	21.7	△2.7
	2番草	23.5	22.5	1.0
	3番草	18.0	29.9	△11.9

表 その2

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
乾物収量(kg/10a)	1番草	594	580	14
	同上平年比(%)	102	100	2
	2番草	189	170	19
	同上平年比(%)	111	100	11
	3番草	170	181	△11
	同上平年比(%)	94	100	△6
	合計	953	931	22
	同上平年比(%)	102	100	2

注1) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、平成27年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 冬損程度は1:無または微~9:甚。出穂程度および節間伸長程度は、1:無~9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

## 11) たまねぎ

作 況：やや良

事 由：晩生品種「スーパー北もみじ」の播種は、平年並の3月11日に行った。育苗期間中の気温は、4月下旬が低かったものの、おしなべて平年並から高めに推移し、苗の生育は順調であった。移植は平年より1日早い5月11日に行った。移植後から5月下旬まで、気温は高く、降水量は少なく推移したことから、生育は停滞した。6月上中旬の気温は低く、適度な降雨もあったことから、生育は徐々に回復し、6月20日における草丈、生葉数および葉鞘径はいずれも平年並であった。その後7月上旬の降水量はやや多く、日照時間もやや多かったため、葉部生育は進み、7月20日における草丈および葉鞘径は平年をやや上回り、生葉数は平年並であった。一方、球肥大はやや遅れ気味であったが、8月上旬までの気温および降水量は概ね平年並に推移し、日照時間がやや多かったことから、8月20日における一球重は平年を大きく上回った。8月中旬以降の多雨により、根切り作業は遅れた。平均一球重は平年を大きく上回り、肌腐れ等の腐敗がやや多かったものの、総収量は平年を上回った。変形球がやや多く規格内率はやや低かったものの、規格内収量は平年をやや上回った。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目	スーパー北もみじ			オホーツク 222(参考)			北もみじ 2000(参考)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月・日)	3.11	3.11	0	2.26	3.1	△4	3.11	3.11	0	
出芽期 (月・日)	3.23	3.23	0	3.12	3.15	△3	3.23	3.23	0	
移植期 (月・日)	5.11	5.12	△1	4.28	5.6	△8	5.11	5.13	△2	
球肥大期 (月・日)	7.25	7.22	3	7.12	7.10	2	7.25	7.18	7	
倒伏期 (月・日)	8.10	8.8	2	7.31	7.30	1	8.10	8.4	6	
根切日 (月・日)	9.1	8.25	7	8.10	8.12	△2	9.1	8.21	11	
枯葉期 (月・日)	8.28	8.30	△2	8.19	8.19	0	8.27	8.25	2	
収穫期 (月・日)	9.7	9.10	△3	8.29	8.29	0	9.7	9.8	△1	
草丈(cm)	移植時	22.1	21.8	0.3	26.5	23.9	2.6	19.9	22.2	△2.3
	(6月20日)	31.8	31.5	0.3	47.1	45.3	1.8	33.3	36.8	△3.5
	(7月20日)	91.4	82.8	8.6	92.1	83.6	8.5	88.4	81.4	7.0
生葉数(枚)	移植時	3.3	3.2	0.1	2.8	2.9	△0.1	3.1	3.0	0.1
	(6月20日)	5.7	5.8	△0.1	6.8	6.4	0.4	5.4	5.6	△0.2
	(7月20日)	10.5	10.0	0.5	10.6	9.5	1.1	10.0	9.4	0.6
葉鞘径(mm)	移植時	4.1	3.9	0.2	4.2	3.9	0.3	3.8	3.7	0.1
	(6月20日)	8.7	8.7	0.0	12.8	11.7	1.1	9.2	9.5	△0.3
	(7月20日)	22.1	21.0	1.1	23.7	21.9	1.8	22.7	21.1	1.6
葉身生重(g) (7月20日)	180.2	139.8	40.4	215.8	145.6	70.2	169.3	125.2	44.1	
球生重(g)	(7月20日)	56.2	67.4	△11.2	110.7	97.8	12.9	54.5	64.2	△9.7
	(8月20日)	296.2	219.7	76.5	321.6	255.5	66.1	339.9	219.3	120.6
総収量(kg/10a)	7483	6277	1206	8694	7310	1384	8257	6538	1719	
規格内収量(kg/10a)	6451	5606	845	7429	6508	921	7138	6089	1049	
同上平年比(%)	115	100	15	114	100	14	117	100	17	
規格内率(%)	86	89	△3	85	89	△4	86	93	△7	
平均一球重(g)	277	218	59	303	239	64	291	211	80	

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。但し、参考品種は前6か年平均。